



## 生徒のエンゲージメントを喚起・維持するコツとヒント



廣森 友人 (ひろもり ともひと)

明治大学教授

生徒が英語学習に夢中になって取り組むようになるには、まずはしっかりと「土台」を作ることが不可欠です（詳細は本連載 Vol. 7 参照）。しかし、これはあくまでエンゲージメントの必要条件であり、十分条件ではありません。心理的な土台が築かれたら、次に考えるべきは、そのエンゲージメントをどのように高め、持続させるかという点です。本稿では、生徒のエンゲージメントを喚起し、維持するための具体的な工夫やアイデアを紹介します。

Mercer and Dörnyei (2020) は、生徒のエンゲージメントを高める効果的な要素として、次の「3つの魅力」を挙げています。

- ①物理的魅力（教材や教室環境が魅力的であること）
- ②活動的魅力（インタラクティブで、生徒が主体的に関与しやすい活動であること）
- ③内容的魅力（学習内容が生徒にとって意味があり、関心を引くものであること）

例えば、「世界の食文化」(Global Food Cultures) をテーマにした授業では、授業冒頭に各国の料理の写真を提示し、“Which food do you want to eat?” と問いかけてみます。その後、“Why do you want to try it?” という簡単なペアワークを行うことで、英語を使ったコミュニケーション活動に自然な形でつなげることができます。

また、「早急な判断を避けること」(Don't Judge Too Quickly) をテーマにした授業では、YouTube の短い動画 “Snack Attack” を使うことができます（お薦めです）。意外な結末に生徒が驚き、ストーリーへの没入感が一気に高まります。こうした視覚的に印象的な教材は、学習への心理的ハードルを下げる効果が期待できます。

### POINT 1

**多様な魅力を活用して、生徒の「学びたい」という気持ちを引き出す。**

一度高まったエンゲージメントも、そのまま放置しておけば、時間の経過とともに低下してしまいます。そのため、教

師は生徒のエンゲージメントを持続させ、できればさらに強化する方法について考える必要があります。エンゲージメントが高まりやすい典型的な場面としては、生徒が「これは自分と関係がある」と感じたり、複数の選択肢の中から「自分で決めた」「自分の表現だ」と思える瞬間が挙げられます。こうした認識を引き出すには、問いかけの工夫やトピック選びが鍵になります（廣森・小金丸, 2024）。

例えば、4コマ漫画をもとに英語でストーリーを描写するといったタスクを考えてみましょう。一般には、教師が用意した素材（統一されたシナリオやフィクションの内容）を使って活動が行われることが多いかもしれませんが、生徒自身が自分の過去の経験を思い出し、4コマ形式で話を構成して、それをペアワークで発表し合うような活動にすることも可能です。この場合、生徒は実体験に基づく個別のナラティブを語ることになり、自己関連性が大きく高まります。

また、同様に、協働活動を通じて、仲間とのつながりを実感させることもエンゲージメントの維持には効果的です。例えば、自分たちの通う学校がある地域の魅力を伝えるポスターを英語で作成するといったグループプロジェクトが考えられます。メンバーで役割を分担し、文章作成、写真撮影、発表などを担当することで、「自分がいなければ」「自分も貢献している」といった意識を高めることができます。

### POINT 2

**題材とのつながりで自己関連性、仲間とのつながりで他者との関係性を高める。**

エンゲージメントを喚起・維持するには、教師側が「どうすれば生徒の興味を引き出せるか」「どうすれば学びが自分事になるか」「どうすれば周りの仲間との関係性を強化できるか」といった視点で授業をデザインすることが重要です。

### 参考文献

- Mercer, S., & Dörnyei, Z. (2020). *Engaging language learners in contemporary classrooms*. Cambridge University Press. (マーサー, S.・ドルニエイ, Z. (著), 鈴木章能・和田玲 (訳) (2022). 『外国語学習者エンゲージメント—主体的学びを引き出す英語授業』アルク.)
- 廣森友人・小金丸倫隆 (編著). (2024). 『エンゲージメント×英語授業—「やる気」と「意欲」を引き出す授業のつくり方』明治図書.

### Profile

主な著書に『エンゲージメントを促す英語授業：やる気と行動をつなぐ新しい動機づけ概念』『改訂版 英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』『動機づけ研究に基づく英語指導』（大修館書店）。学生のエンゲージメントを高めるために日々奮闘中！